

キラリと輝くむらびと

佐井村は「小さくてもキラリと光る村」と紹介されることがあります。この特集では、誇りをもって活動している方、夢実現のための挑戦や、むらづくりに奮闘する方など、佐井村の“ヒト”という魅力にスポットライトをあてて紹介していきます。

や ぼら しょう た 家洞 昌太

プロフィール

1998年生まれ、岐阜県出身（牛滝地区在住）。平成29年から※漁師縁組事業で佐井村に移住し、一人前の漁師を目指して日々修行中。
※漁師縁組事業……全国から移住者を募り、一人前の漁師になるまで最長5年間、村が生活費を支援する仕組み。

—— どうして漁師になりたいと思っただけですか？

中学生のころ、祖父に連れて行ってもらって初めて釣りをしました。地元には海がなかったのが川釣りだったんですけど、そこで大きな鯉を釣り上げたんです。そのときの釣り上げた感覚が忘れられなくて、どんどん釣りにハマっていききました。高校生になってからは自分で道具もそろえて、よく釣りに出かけていました。

僕の通っていた高校は普通科だったんですけど、卒業後の進路って大体の人が大学進学で、就職希望の人はあまりいなくなりました。でも僕は、よくテレビで漁師の特集とかやってるじゃないですか、それを見て漁師って仕事にすごく憧れがあったので、高校終わったらすぐなりたいって、心に決めていました。

高3になっていよいよ進路を決めるころ、たまたま佐井村の漁師縁組事業を知りました。これいいなって思って、11月だったかな？ 一度佐井村に漁業体験に来たんです。網起こしとか体験させてもらって、そのときここで漁師になろうと決めました。

—— 遠路はるばるやってきた佐井村。印象はどうでしたか？

僕は海が好きで、もともと海がないところに住んでいたから、人一倍海に憧れがあったん

です。だからすごく雰囲気がいいところだと思っていました。田舎だし、今まで住んでいたところは環境も違っていたけど、ここなら全然大丈夫、やっていけるなって思いました。

—— 初め携わる漁業の世界。これまでどんなことをやってきたのですか？

最初は本村の丸漁漁業部さんのところでお世話になって、定置網などをやっていました。ただ、佐井には冬場に主力の漁がなかったのも、そんな冬こそ真鯉の定置網が盛んな牛滝に行ってみないかと声をかけてもらい、11月から牛滝に移り住みました。

—— 途中から拠点に移ったんですね。牛滝はどうですか？

牛滝は他と比べて自分と年の近い漁師さんが多くて、日常でも仕事でも、結構触れ合う機会があるから、そういう点ではよかったですね。地域住民のみならずみんな優しく、た



地区の祭りに参加する家洞さん

ん話しかけてくれたりしたので、すぐに打ち解けました。地区の行事にもいろいろ参加させてもらってます。

—— 先輩漁師の指導は厳しくなかったですか？

厳しかったですね。でも漁師は沖に出たら常に危険と隣り合わせなので、厳しいのは当たり前だと思っし、むしろ真剣に指導してもらえてありがたいと思います。海って少し前までいい風でも、いきなり風が吹いて波が立つて危なくなるとかしょっちゅうなので。特に冬場はしける日が多いから、そういうときの大変さは教わりました。

—— 最後にこれからの抱負をお願いします。

この仕事は自分に合っていると思うし、これからもやっていきたいと思っています。具体的に何をというよりは、今自分でできることを精一杯やっていきたいと思っし。



獲った魚を陸揚げする家洞さん